

0. はじめに

会員の皆様方、お元気に活躍されていらっしゃるでしょうか。昨年末、ある部活動のOBOG(現在 20 代半ばから後半)が 20 人ほど宇都宮に集った話を聞きました。それぞれの職場で活躍しているとのこと、うれしい限りです。一方、本調子でない方もおられると思います。どうぞお大事にしてください。この 2024 年度の冬は「インフルエンザリターンズ」という位に校内で出席停止の生徒が急増しました。感染者が増えているのは全国的な傾向のようです。厚生労働省が発表している季節性インフルエンザの患者報告数のデータによると、第 51 週(12/16~22)の時点で 211,049 件(暫定値)の報告がありました(2024 年 12 月 31 日確認)。ちなみに 2019 年同時期の報告数は 105,487 件、2021 年は 49 件でした。

1. 昨春入試(2024 年度入試)について

合格状況については、進路部 HP をご覧下さい。特徴的なことは、大学等の外部団体が主催するプログラムに参加し、そこで得た学びを入試に活かした生徒が多かったことです。教科学力で選抜する評価軸とは異なる「第 2 の評価軸」の存在を感じさせられる入試シーズンでした。また、国公立大学一般選抜の後期試験まで受験した生徒が、挑戦する心や自信を身につけた姿を見せてくれたシーズンでもありました。一橋大学(後期)を受験した生徒に感想を聞いたところ、「問題が難しすぎて覚えていません。」と返されました。秋田大学(後期)を受験した生徒は、以下のように振り返っています；「一年間全力で勉学に向き合えたことは、結果がどうであれ、私にとって良い経験だったと思います。辛いことも多いし、悩むことも沢山ありますが、それでも頑張ることが受験を乗り越えるコツだと私は思います。(ただやるだけではダメ)」結局 2 人とも各々の大学に縁はなかったのですが、この卒業生たちにとって価値あるチャレンジだったと思います。

2. 職業人による講演会

まず、同窓会の支援に深く御礼申し上げます。今年度の講演は、平成 30 年度本校卒の相馬あすかさんにお願ひしました。タイトルは「自分の”好き”を仕事にする」です。進路部 HP に行事報告をアップしているので、詳細はそちらをご覧ください。



3. 新教育課程下での大学入学者選抜

新聞報道等でご存じかと思いますが、今春の卒業学年から新学習指導要領に対応した入試が始まりました。大学入試センター試験を受けた私から見れば、学習内容のボリューム

の多さ、試験時間の延長に適應している受験生には頭が下がる思いです。変化に対応べく試行錯誤した 3 年間でした。入試結果並びに振り返りについては、来年の同窓会報で報告します。

4. AI

今、AI が世の中を席卷しています。研究自体は 20 世紀半ばから続けられてきましたが、2022 年後半に登場した ChatGPT がゲームチェンジャーとなりました。今では CM の登場人物が AI で作成されたり、人間に代わって仕事をする AI エージェントが開発されたりと、指数関数的な速さで社会が進化していています。教育の世界にも浸透してきており、文部科学省がガイドラインを公開しています¹。大学入学者選抜も変化しています。例えば、日本大学経済学部の 2025 年度学校推薦型選抜における小論文(事前課題)に対しては、以下のような指示が出されていました；

小論文(事前課題)について生成 AI の利用を妨げない。ただし、利用する場合は自身の責任において利用することとし、以下について十分注意すること。

【利用の明示】生成されたデータ等をそのまま利用すると剽窃・盗用等の恐れがあるため、生成 AI を利用した場合は、利用したツールと利用した箇所が分かるよう明示すること。

【信憑性について】生成されたデータ等は出典が明らかでない不正確な情報の可能性がある。必ず自身でその真偽や出典を確認すること。

【著作権の尊重】生成されたデータ等には、他人の著作物の内容が含まれている場合があり、それらをそのまま利用すると著作権侵害となる恐れがある。

【個人情報の流出】生成されたデータには個人情報が含まれている可能性があるため、利用する場合は十分注意すること。

それぞれ最低基準を設け、基準に達しない場合は不合格となる。

東北大学の AO 入試Ⅱ期では、1 次選考に入っていた書類審査がなくなりました。書類作成に AI が用いられることが前提であることへの対応と思われます。今後は、生徒の推薦書の作成に AI を使う教員が出てくることでしょう。矢東生のみなさん、これらの内容をどのように感じますか。

「耳底に残る言葉がある。お飾りや借り物などでなく、その人の本心から発せられた真の語りと言ったらいいか。ぐっと胸に迫り、何とも忘れがたい。」(2024 年 12 月 30 日(月) 付け朝日新聞天声人語)

¹ 初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン (Ver.2.0) (令和 6 年 12 月 26 日公表) https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html

「AI が登場し、共存が求められる現代だからこそ、記者の取材力、筆力、編集力が一層重要視される時代になると思っています。」(月刊東京大学新聞 1 月号 林香里教授インタビュー「記者は真偽を嗅ぎ分ける『情報のソムリエ』再考する新聞の役割」)

実は今回の同窓会報を書くにあたり、試しに ChatGPT に命令文を入力してみました。使い慣れておらず質問が雑だったゆえ、非常につまらない出力がされました。問いの立て方が上手であれば、より精巧な返答をしてくるのでしょうか。しかしそれは、迫力も味気も面白みもない、平坦な文章だろうと予想しています。私は自分の思考を自分の言葉で絞り出したいです。

5. 自分で学ぶ態度

昨年 12 月、このようなニュースが話題になりました；

「教員不足でテストできず…2 週間にわたり自習続く 生徒に直接的影響」

(出典：<https://www.saitama-np.co.jp/articles/114337/postDetail> 2025 年 1 月 15 日確認)

人手不足は多くの業界で言われています。私たち教育業界もまた然り。義務教育界のニュースは大々的に取り上げられますが、高等学校の様子が大きく取り上げられることはそれほどありません。本校にもその波が少しずつ寄ってきていることを私は感じています(もしかしたらすでに到着しているかもしれません)。上記のような状況がもっと長期間起きたら、どのような対応が考えられるでしょうか。

「急速に社会が変わる中、大人になっても自ら学び続けることの大切さが増している。大人は、その範を示せているか。若者が成長をめざして学べる仕組みを整えられているか。」(2025 年 1 月 13 日(月)付け朝日新聞社説)

学び続けることについては、2019 年度同窓会報でも取り上げています(<https://www.tochigi-edu.ed.jp/yaitahigashi/nc3/wysiwyg/file/download/1/148>)。矢東生には在校中にこの態度を身につけてほしいと思います。それはリスクマネジメントにもなり、自分の身を守る術にもなるでしょう。

最後に想像してください。「先生が不在なので、今日も自習です。」という指示が 1 週間、1 ヶ月、・・・と続いたら？今受けている授業、当たり前は当たり前でない。